



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

緑内障

緑内障は、網膜神経節細胞という、網膜に映った映像を脳に送っている神経細胞が障害を受けて萎縮し機能を停止させる病気です。ただ、この細胞は100万個以上存在するため、少し壊れたぐらいでは症状として表れませんし、ある程度障害されて一部の視野が欠落しても、周囲の視神経の情報から欠損部分を補ったり、反対の目でその視野の部分を補うことができるので、症状に気がつきにくく、かなり進行してかからずく人も多いようです。

神経細胞が障害を受ける原因は、眼球内液の圧力(眼圧)が関係しており、視神経が眼圧により圧迫されて起こるのではないかと考えられています。したがって、眼圧の高い方が緑内障になりやすいのですが、眼圧が高くない正常値の方が緑内障を発症するケースも多く、そういう

方は視神経の眼圧に対する抵抗力が低く、少しの圧力で神経細胞が障害を受けるのではないかと考えられています。

一度障害を受けた視神経は、現在の医療では元の機能を取り戻すことはできません。したがって、これ以上障害を受ける視神経を増やさないために、眼圧を下げることで緑内障治療の基本になります。

緑内障の治療薬は眼圧を下げる点眼薬が中心で、プロスタグランジン関連薬や交感神経遮断薬など数種類に分類されており、その作用や副作用の違いにより使い分けられ、さらに効果を高めるため何種類か組み合わせ使用されます。薬の種類によっては、目の周りが黒ずんだりする眼周囲症状や脈が遅くなるなどの全身症状の副作用が起ることがあります。そのため、1滴だけ点眼し、目からあふれた薬はティッシュ等でふき取ってください。また、2種類以上点眼薬を使用す

るときは、前の薬を点眼して5分以上間隔を空けてから、次の薬を点眼してください。

薬の中には、眼圧を上げる副作用を持つものもたくさんあります。お医者さんに処方してもらった医療用医薬品だけでなく、薬局で買える市販薬にも眼圧に影響する薬はあります。緑内障の方は、病院を受診するときだけではなく、薬局で薬を買う際にも緑内障であること伝え、薬剤師または登録販売員に相談して薬を選んでください。

緑内障は自分では気がつきにくいので、かなり進行してしまうこともあります。視野の簡易検査ができるインターネットサイト等もありますので、一度そちらを利用してみて、もし気になることがあれば医療機関で詳しい検査を受けることをお勧めします。

(北区 薬局エビラファーマシー

松本 博志)